

駅館川農地整備事業

板場1工区区画整理(その2)工事

工事箇所は、大分県宇佐市安心院町に位置し、現場より雄大な由布岳を望むことができます。安心院町では、企業経営体による営農や地場産のブドウを用いたワインの製造・販売など6次産業化の取組も行われています。一方では急傾斜の農地が多く、用水路なども老朽化が進んでいるため、本事業では、区画整理243haと農道や水路整備を一体的に施行することにより、生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図ることとされています。

工事内容は、造成工69,000m³と排水路工、管水路工、附帯工です。地区面積は6.06haありますが、山間部のため法面が多く圃場面積では3.70haとなっています。工事は伐開・除根より始め、切り盛り土工により畑面を造成します。現状では、面積が広く急峻なため、大型車両が通行できる道路がなく、伐採材の搬出及び大型重機搬入のため道路拡幅および進入路を新設して工事を進めています。

また、今年は台風や雨が多く、その分稼働可能な期間も失われ、また地域の災害復旧のため人手、重機のオペレータ不足等から非常にタイトな工程の中での施工となっています。現場周辺には、民家やブドウ園が隣接しているため、関係者とのコミュニケーションを緊密にし、工事期間も残りわずかになりましたが、監督職員の方との毎週工程の突合せによる情報共有の緊密化など、工夫や駅館川事業所職員の皆様のご指導を賜りながら、無事故・無災害での竣工を目指し、職員一同努めてまいります。



監督職員からのエール

本工事は、駅館川農地整備事業において整備する農地として主要な位置を占める茶畑を造成する工事です。

現場の地形は起伏に富み土工量が多く、想定外の岩盤や軟弱層の出現といった現場条件の変化や関係機関との調整により、施工方法の見直しを余儀なくされ、苦勞の多い現場となっています。

そのような状況下にあっても、現場代理人の関さんは監督職員との連絡を密に行い、施工方法の見直し等について迅速に対応し、工事を進めていただき大変感謝申し上げます。

工事も終盤になり、天気とにらめっこしながらの落ち着いた時期ですが、安全管理に留意し品質、工程の適正な管理を行い、工事を完成していただきたいと思います。

監督職員

(写真左) 九州農政局駅館川農地整備事業所

工事第二課長(4月1日より工事一課長) 池畑兼太郎

現場代理人

(写真右) アイサワ工業株式会社

宇佐作業所 関 賢一

